**第164回ペン川柳「蒲団（布団）」**

**世話人：平尾富男（酔深）**

**日時＝平成２９年１２月２２日（２０１７年最後の句会）**

**（\*印は今月の互選句、\*は最優秀句）**

**１．布団でもかけてやろうか寝る生徒　（明迷）　←　（選外）**合評に間に合わず、選外となりました。作者は学校の先生です。優しい先生として生徒からの人望が厚いことは、この句からも良く伺えますね。でも、明迷先生の優しさは女生徒、それも美形に限られるそうです。世話人はセクハラ疑惑の起らないことを祈っています。

**２．寝乱れに蒲団は言いなり一人寝は　（鬼瓦）　←　（１票）**一人寝の蒲団の蒲団は寝乱れても～～　　欠席投句でしたので意味不明でした！

**\*３．座ぶとんを積んではがして笑いとる （損得） 　← （５票）**テレビの高視聴率落語番組の**「笑点」**を詠み、高得点を獲得しました。「座布団を積んで**はがして**」が効果的でした。

**４．世界地図布団に描いた孫を誉め　（火酒）　←　（２票）**息子や娘なら叱るところですが、可愛い孫なら許せるのです。作者もそろそろ孫が欲しいんですよね。

**５．羽布団丸めて抱いてる独り者　（我々好）　←　（２票）**侘しい作者自身の日常を吐露しましたか！　同情票が入りました？！

**６．思い込め優しくたたむかの布団　（不言）　←　（２票）**彼女（男？）と一緒に寝たあの布団が「かの布団」なんですね。昨夜の甘い夜を思い出しながらたたんでいる姿が髣髴とされます。

**７．東山布団の下で足絡め　（だし）　←　（０票）**元句の下五は**「何をする」**では
 具体性に欠けるので添削されました。博学の作者は松尾芭蕉の弟子、服部嵐雪の句**「蒲団着て寝たる姿や東山」**を詠み替えましたが、元句ではインパクトに欠けます。

**８．座布団が飛び交う我が家の夕食後　（酔深）　←　（１票）**平和な一家団欒から
　は程遠い作者の家庭不和状況を想像できない選者には全く意味不明の句。 **９．恋う花袋蒲団の香りで燃え上がり　（井波）　←　（１票）**田山花袋の『布団』
　を下敷きにしています。作者自身も、前夜を思い出しながら蒲団の匂いを嗅いで一
　人燃え上がっています。
**１０．冬の朝ぬくい布団に丸くなる　（安兵衛）　←　（２票）**温かい布団から出た
　くないのが冬の朝です。猫好きの作者は、猫のように蒲団から出るのを嫌がっては
　奥方に叱られています。**「あなた、今日のペン川柳の会合にまた遅れますよ！」**
**１１．高い宿ふかふか布団寝付かれず　（零門）　←　（２票）**元句の上五は「高級
　宿」と字余りでリズムを壊していましたので添削されました。心地よい睡眠を得る
　ためには、矢張り自宅の安物煎餅布団がしっくりくる作者なんです！
**\*１２．お隣りも前立腺かユニチャーム　（だし）　←　（３票）「前立腺」**に座の
　全員が反応しました。元句下五は**「布団干す」**でしたが、添削の**「ユニチャーム」**（大人用紙おむつ）の方がインパクトがありますが、お題は「蒲団」を詠み込まね
　ばなりませんね。
**\*１３．鬼嫁の得意は布団尻叩き　（零門）　←　（４票）**旦那の尻を叩くのも、それ
　はそれで賢婦人のお仕事なんです。作者は愛する奥方を、感謝を込めて敢えて「鬼」
 と表現しました。
**１４．座布団の数で計るか落語会　（我々好）　←　（０票）**この句も第三句同様、
　テレビの落語番組**「笑点」**を詠みましたが、川柳の三要素である**「うがち」**、**「軽み」**、
　結果として引出される**「おかしみ」**のどれも入っていません。
**１５．ぬくもりを惜しみて放置この蒲団　（不言）　←　（０票）**元句の下五は**「昨
　夜の蒲団」**でしたが、字余りを避けるために添削されました。昨夜の出来事である
　ことは、「この」と句全体から想像できます。「放置」も硬い表現ですね。
**１６．山小屋の恐怖年増と相布団　（明迷）　←　（選外）**合評に間に合わず、選外
　となりました。登山では山小屋で夜を過ごすことがありますが、男女分け隔てなく
　着の身着のままで雑魚寝することになります。作者が嫌っているのは「老若」分け
　隔てなくなんです。
**\*１７．残り香が沁みる布団で夢漁り　（酔雅）　←　（６票）**断トツの最高点を獲得
　しました。今月の最高得点句です。「残り香」が大好きな作者は、毎晩布団の中で
　「夢を漁って」います。点を入れた座の撰者も「お色気路線」が好みに合っている
　ようです。
**１８．枕投げ蒲団で防戦京の宿　（鬼瓦）　←　（０票）**関東の高校の修学旅行の定
　番は京都です。京都見物や歴史の勉強よりもみんなで一緒に枕を並べる夜の楽しみ
　が、枕投げ合戦でした。作者はそれをしみじみ思い出しながら詠んだのです。
**\*１９．暮近し猫と添寝の冬布団　（安兵衛）　←　（４票）**猫大好きな作者の冬の日
　常です。奥方もゆっくり隣室で静かに寝られると喜んでいます。「暮」と「冬」が
　ダブっていますので、「暮近し」は別の上五を考えた方が良かったですね。
**２０．水鳥が蒲団に化ける寒の入り　（火酒）　←　（１票）**寒さが身に沁みるよう
　になると羽毛蒲団が恋しくなるという作者ですが、寒すずめの焼き鳥を肴にチビチ
　ビやる方が性に合っています。寝る時は、羽毛布団は軽すぎて寝た気にならないら
　しい。人体の重さが一番なんです。
**２１．世界地図見るたび浮かぶ敷布団　（損得）　←　（２票）**「あら嫌だ、この子
　ったら、又オネショしたのね」と言われ続けた子供の頃を思い出して詠んだのです。
　老いた身体もそれを最近思い出して、時折敷布団を濡らしては奥方に叱られている
　のです。
**２２．こんな句で座布団五枚は目出度いな　（酔深）　←　（０票）**作者の自虐川柳
　ですね。座布団五枚、つまり高得点を得られるわけがありません。だからこの句も
　点が入りませんでした。
**２３．ぬくもりを蒲団に包む余韻まだ　（井波）　←　（２票）**目くるめくあの喜び
　の余韻が未だ残っている蒲団から、中々離れられない作者なんです。「一生そこか
　ら出ないで頂戴！」
**２４．金婚や階上階下に蒲団敷き　（晃二）　←　（２票）**元句の中七は**「戌亥と辰
　巳に」**でしたが添削されました。五十年も目出度く連れ添うことが出来ましたが、
　寝る時は二階と一階に別々なんです。それが長続きの秘訣なんですよね！
**２５．座布団をもとめてあがく川柳会　（酔雅）　←　（１票）**この句も高い視聴率
　を誇るテレビ番組『笑点』を詠みました。

**２６．座布団が舞い襲来し博多荒れ　（晃二）　←　（２票）**蒙古襲来に引っ掛けたのですが、座布団が舞うこととは関係がないですよね。

**今月は、最優秀に第１７句（酔雅）、そして次点に第３句（損得）を選びました。**

**参加者＝（９名→１８句）稲宮健一（井波）、山縣正靖（安兵衛）、平尾富男（醉深）、浜田道雄（我々好）、三春（火酒）、安藤晃二（晃二）、大野ただし（だし）、細谷博（損得）、西川武彦（酔雅）**

**欠席投句者＝（４名­→８句）八木信男（明迷）、岩崎洋一郎（不言）、富田佳瑞（鬼瓦）、松谷隆（零門）**

**―　今後の日程（来年５月迄）：**

**２０１８年１月２６日（金）「玉（たま、ぎょく）」、２月２２日？（金）「穴」、**

**３月２３日「掘る」、４月２７日「芋」、５月２５日「麦」**